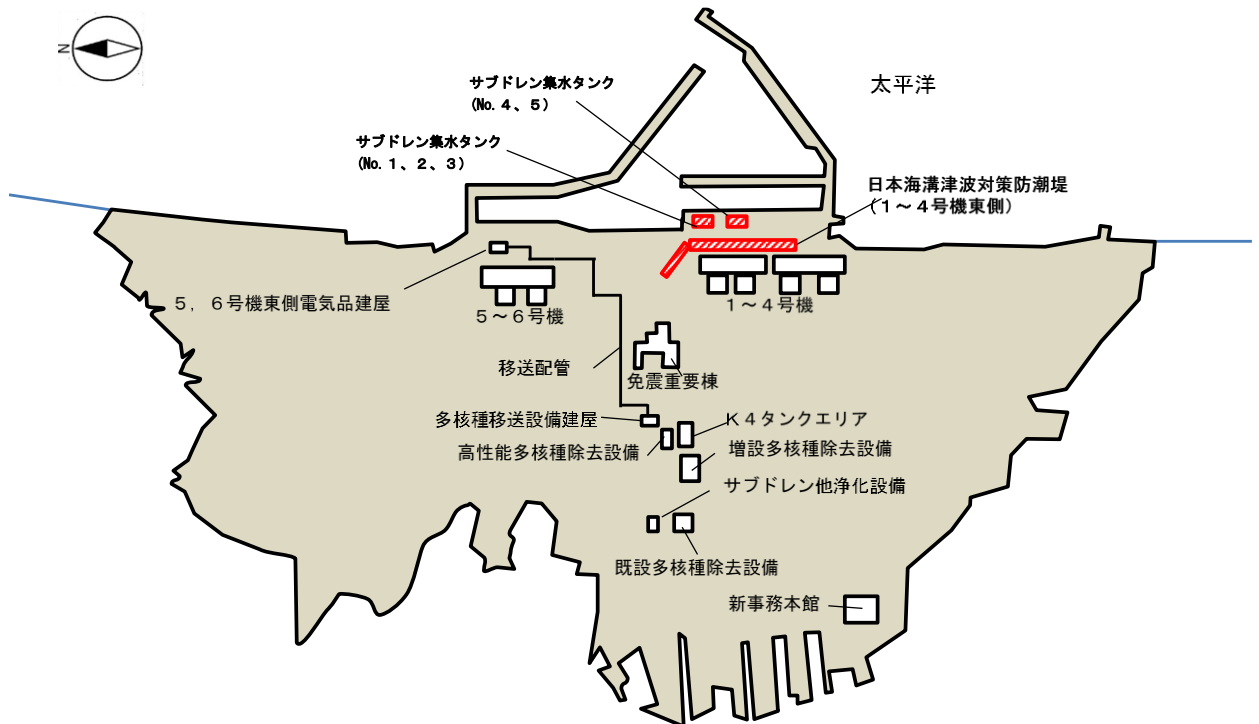


福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年10月8日（火）
- 2 確認箇所
1・2号機タービン建屋付近・日本海溝津波対策防潮堤東側（図1）
- 3 確認項目
1・2号機タービン建屋付近・日本海溝津波対策防潮堤東側で発生した重機からの作動油漏えい通報に基づく現況確認
- 4 確認結果の概要

調査当日、09:53頃、1号機タービン建屋付近の防潮堤東側（海側）路面に油膜があることを東電社員が発見したとの通報があったため、当該通報のあった現場付近で行われていた油回収作業の実施状況、漏えい範囲及び環境影響の有無等について確認を行った。油の漏えいは、1・2号機タービン建屋付近の重機設置場所、日本海溝津波対策防潮堤東側（海側）路面及び1～4号機東側の護岸付近に設置されているサブドレン集水タンク（No. 1～3及びNo. 4～5）周辺で確認された。

確認した結果、それぞれの漏えい範囲が適切に定められ、吸着マットによる油回収作業や中和剤の散布が確実に実施されていることを確認した。さらに、当該油漏れが港湾内まで達していないことを確認した。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

<通報内容>

- ・発見日時： 10月8日 9:53頃
- ・発生場所： 1号機タービン建屋付近の防潮堤東側（海側）
- ・現場状況： 重機からの油漏れ回収作業中に防潮堤東側路面に油膜があることを東電社員が発見
- ・対応状況： 吸着マットによる回収作業を実施、また、路面への油膜があることから中和剤を散布。漏えいの継続は認められないものの、漏えい範囲を確認中。 09:59 双葉消防本部へ連絡

<現場での確認結果>

① 1・2号機タービン建屋付近の重機設置場所、日本海溝津波対策防潮堤東側（海側）路面における油漏れ現場対応状況

- ・現場到着時の重機設置付近においては、吸着マットによる回収作業はほぼ終了しており、防潮堤東側路面に広がった油膜を中心に中和剤の散布が行われていた。また、重機からの漏えいは既に停止しており、継続のおそれはないことを確認した。（写真1、2）
- ・防潮堤に設置されているフラップゲート（防潮堤の高さを上回る津波が襲来した際、防潮堤内側の海水を排水する機能を有する）を經由し、護岸エリアの方向に向かって油漏れが拡散したものと推定された。これら拡散に伴う影響範囲について現場での確認作業が実施されており、それぞれ必要な対応（吸着マット敷設、中和剤散布など）が図られていた。（写真3、4）

② 1～4号機東側護岸のサブドレン集水タンク（No.1～3及びNo.4～5）設置場所周辺での現場確認結果

- ・上記の漏えい発生現場周辺での対応状況を確認後、護岸エリアに移り、引き続き、漏えい範囲や必要な措置の実施状況を確認した。（写真5）
- ・サブドレン集水タンク設置場所付近の道路側溝においては油漏れの影響が確認され、必要な対応（吸着マット敷設、中和剤散布など）が図られていた。また、港湾への漏えいがなかったことを確認した。



(写真1) 重機周囲の中和剤散布状況



(写真2) 吸着マットの敷設状況



(写真3①) 防潮堤～2.5m盤乗入れ道路における中和剤散布と確認作業



吸着マット敷設状況

(写真3②) 乗入れ道路内の観測井戸1-5周辺における吸着マット敷設



(写真4①) 防潮堤フラップゲート②海側出口付近における確認作業状況



(写真4②) 同ゲートの油流出防止措置状況：漏えいがないことを確認



サブドレン
集水タンク No. 4, 5

(写真5①) T.P. 2.5m盤護岸エリアにおける対応状況①（作業道路側溝への吸着マット敷設等）



(写真5②) T.P. 2.5m盤護岸エリアにおける対応状況②（同左）

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。